

(様式1) 平成 21 年度

### 1 自己評価及び第三者評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2870700420		
法人名	社会福祉法人 きたはりま福祉会		
事業所名	フレール離宮西町		
所在地	兵庫県神戸市須磨区離宮西町2丁目2-3		
自己評価作成日	平成22年2月17日	評価結果市町村受理日	平成22年6月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-8-102
訪問調査日	平成22年3月2日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

急な坂で、幹線道路に面した市営型のグループホームで、近隣に離宮公園があり、緑に恵まれ、南には、瀬戸内海や大阪湾が眺望できる環境の中、運営されている。家族との便りやメール、暦を大切にした行事の実施、年2回の家族会の開催など、家族との連携を重視している。また、地域に向けて、盆踊りや左義長への参加など、少ない参加機会を有効に活用し、地域との連携を図っている。そして、家族が希望するならば、多職種の協働による看取りも行なっている。

**【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

市営住宅型のグループホームは、共有スペースの窓から離宮公園の緑や須磨の海を一望でき、季節の移ろいを感じ穏やかに過ごせる環境が整っている。職員は地域の慣らしや懐かしい行事に利用者が触れる機会を大切にし、どんと焼きや盆踊り等への積極的な参加を支援している。また、ホーム内では季節毎に馴染み深い行事を採り入れ、家族等の参加・協力を得ながら、利用者の楽しみや張りのある暮らしを支えている。医療連携体制を整え、提携医の往診や看護師の巡回等で利用者の日々の健康を管理し、重度化や看取り体制の更なる充実にも取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分が入居したい施設作りを目指して日々取り組んでいるが、新しい職員には共有出来ていない。また、当事業所の「地域に密着した介護サービスの運営方針」を各ユニットに配置している。	市営住宅型のグループホームであるため、市の助言や指導のもと地域密着型サービスとしての独自の運営方針を掲げている。職員は毎月のミーティングやカンファレンスで話し合い、理念や方針の理解・浸透を図るとともに、ホーム内に掲示し日常でも意識しあうよう取り組んでいる。	新人研修計画の中にも盛り込み学ぶ機会を設けているため、今後も研修等の実施により、新人職員も理念・方針を理解し共有できるよう取り組んでいく事を期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校の音楽会・運動会・とんど・地域の盆踊り大会等へは毎年積極的に参加しており、地域の方々との交流をはかっている。	周辺地域の小学校・PTA・婦人会との協力のもと開催される「とんど祭り」や、盆踊り・運動会への参加が継続されている。ホーム内での行事はボランティアの協力を得ながら、地域の人も招待し交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の小学校等への音楽会・運動会・とんど等へは毎年参加しており、地域の方々との交流は出来ているが、理念をどれくらい理解してもらえているか分かりづらい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進委員会を開催し、当施設の状況や地域交流の内容も話し合っている。	運営推進会議は二か月に1回定期的に開催され、利用者家族・婦人会等地域住民・地域包括職員・知見者などの参加がある。利用者の現状・年間行事の案内や参加状況・家族会について等報告し、地域交流を深めるための情報交換等もなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	神戸市の高齢福祉課と定期的な連絡を行っており、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市営住宅型のホームである為、市の高齢福祉課や住宅管理センター等と継続的に連絡をとり合い、施設の管理面や現状について情報交換を行い、協力関係が継続されている。	

自己	者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設施設と合同で身体拘束委員会を開催し、マニュアルに沿って身体拘束をしないケアに努めている。居室の鍵は本人の意志を尊重して開閉している。その他具体例を挙げて身体拘束にならないか検討している。	身体拘束のマニュアルを整備し、日頃より身体拘束をしないケアに努めている。三か月に1回開催する身体拘束委員会や研修の中で事例検討も行い認識を深め合い拘束の無いケアの実践に努めている。日中は玄関等の施錠なく、玄関センサーにて人の出入りを把握・対応している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リスクマネジメント会議、身体拘束委員会を開催し、虐待を含め広く話し合っている。虐待防止に対するレポート提出、それに沿った研修会を実施し、虐待防止の為の対応について話し合っている。	神戸市の集団指導等で学んだことを活かし、ホーム内でも伝達研修の実施で職員一人一人が理解を深めていくよう取り組んでいる。職員のストレスや疲労の蓄積が虐待につながる可能性も理解し、対応策について検討されている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	神戸市の資料・パンフレット等で職員に制度の説明をし、理解浸透に努めている。	現在制度等を活用している利用者はいないが、身体拘束等の研修内で学習するとともに、資料等を整備し適宜参考にできるように配慮している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面接、契約の際に十分な話し合いの場を持ち、一方的にならず相手の疑問や不安を聞き出し、納得・安心して頂けるよう努めている。医療体制についても詳しく説明をし、重度化や看取りについても同意を得るよう努めている。	利用について気軽な問い合わせや見学に対応できるよう配慮している。納得のいく契約となるよう、面接等で利用料金や解約について丁寧に説明しトラブルの無いよう努めている。医療連携体制や看取り体制についても、将来に対する不安の軽減のために詳細に説明している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は毎日巡回に来ており、入居者が意見・不満・苦情を言いやすい環境にある。また職員もシフト制で勤務しており、誰かに訴えかけることが出来る環境にある。都度カンファレンス等を開催し、安心して生活して頂けるよう努めている。	月1回のホーム便りにより家族にホームの状況を定期的に知らせている。面会時・家族会・運営推進会議などで出された家族からの意見は、カンファレンスなどで改善策について検討し、状況に応じて記録に残している。日々の暮らしの中で職員は「気づきメモ」に利用者の心身の状況等気づいた事を記入し、ケアの改善に活かしていけるよう取り組んでいる。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	寮母会等へ管理者も同席し、施設運営に関することや業務内容についての話し合いを持っている。	管理者は日常の業務の中で職員の個々の思いを聞いていくよう努めるとともに、月に1回の寮母会などで職員と話し合うよう取り組んでいる。日々のケアについては担当制を取り、また職員の異動も極力少なくし利用者との馴染みの関係に配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入しており、個々人の意欲向上を狙い、やりがいや成長を促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症研修への推薦、参加者による勉強会等、段階に応じた意欲の向上や知識習得に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長同士の交流は行っている。職員は施設外研修で知り合った職員と情報交換を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初めての顔合わせなどでも、気軽に相談できるよう、聞く姿勢を大切にしている。また分かりやすい言葉で説明するよう努めている。今までの生活の中での大切にしていることを継続できるよう聞き取りを行い検討している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初めての顔合わせなどでも、気軽に相談できるよう、聞く姿勢を大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	併設施設や他の施設・サービスの利用など、状況に応じたサービスが受けられることも考慮しその方に合ったサービスが提供できるよう検討している。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者とのかかわりの中で喜怒哀楽を共にし、その人らしい生活の援助、本人の意見の尊重に努めている。また食事や四季折々の行事の準備を共にしながら、入居者から学ぶことも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できるだけ家族と共に入居者を支えていけるよう、定期的な新聞だけでなく、メール等で呼び掛けや案内を出している。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人への連絡等できる限りの支援を行っているが、馴染みの場所への付き添いは基本的には家族に協力してもらえるようお願いしている。家族の協力を得られない場合には、職員が一緒に行き、情報収集にも役立っている	利用者や家族から、これまでの生活歴や人間関係を出来る限り聞いていこう努めている。利用者の思い出の地や馴染みの場所への付き添いは家族の協力を得ているが、状況に応じて臨機応変に対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	どの入居者とも馴染みの関係が築けない入居者に対しては、職員が間に入って孤立しないよう援助している。他入居者との関係作りを望まない入居者には無理に関係作りは行わず、職員が馴染みの関係になるよう工夫する。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事例としてはわずかだが、今までの馴染みの関係のひとつとして、関係を断ち切らず、相談等には気軽に受けるようにしている。また、関係機関との連絡調整など、必要に応じて行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者本人と話をしながら、希望や意向を把握できるように努めている。どの入居者にもできるだけその人らしい生活ができ、職員の押しつけにならないよう工夫している。	利用開始時に自宅訪問等により本人の生活史や習慣等を情報収集し、今後の暮らしへの意向や要望を把握し反映されるよう配慮している。日々の暮らし中で、「気づきメモ」に利用者との会話・様子観察などで気づいたことを記入し、職員間で共有している。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの聞き取り、今まで利用していた施設からの情報提供票などから今までの生活の環境を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中から気付いたことをケース記入し、情報共有しながら、一日の過ごし方、本人の興味のあること、心身の状況など把握するようにしている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを行い、本人・家族の意見を反映できるような話し合いを行っている。	利用者・家族からの情報を参考にアセスメントし、意向が反映されるよう努めている。カンファレンスで検討した後介護計画を作成し、利用者・家族に説明と同意を得ている。ケア担当者が毎月モニタリングを行い、状態変化があればその都度計画を変更し、安定している場合も6カ月ごとに定期的な見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・気づきや工夫、その結果等をケースに記入し、重要事項は寮母日誌に記入して情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の希望による外出支援及びかかりつけ医の受診を行っている。医療連携をはかり、病気の早期発見に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治体の諸団体と現状等について話をしている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科(週1)、眼科(月2)、歯科(随時)など、定期的に往診に来てもらい、診察を受けている。緊急時には電話で相談したり、主審に行っている。Dr同士の連携が良好で助かっている。	併設施設の看護師の定期巡回や緊急時の連絡・相談の体制も整い、医療連携体制が整備されている。内科・眼科・歯科の定期的な往診もあり利用者の健康管理が継続されている。馴染みのかかりつけ医の希望があれば、付き添いは基本は家族にお願いするが状況に応じて柔軟に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的には併設施設看護師による日勤帯での巡回、急変時には昼夜問わず電話連絡による指示が受けられる体制を整えている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中には面会・医療機関との入院中の情報交換を行いながら、早期退院に向けての取り組み、退院後の対応に向けての情報交換を行っている。家族からも状態の報告がこまめにあり、場合によって医師からの説明の際に施設長、職員が立ち会い今後について検討することもある。	利用者が入院の場合、主に担当職員や施設長が面会に行き、本人や家族の不安の解消に努めている。早期退院に向け医療関係者と話し合う機会もあり、個人情報の取り扱いに配慮しながら情報交換や共有を図っている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	個々に家族・本人の希望を聞いてはいるが、中には現時点で家族・本人は具体的に考えられない方もあり、職員間でも全入居者に関しての十分な共有はできていない。	重度化や看取りについて利用開始時に家族等に説明し同意を得ている。利用者の個々の状況に応じ、意思の統一を図る為に話し合うよう努めている。	今後も利用者の重度化等状態変化に応じて、職種間や家族との話し合いを継続し、方向性の統一を図っていくための協力体制を整えていく事を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて緊急時対応マニュアルは完備しているが、訓練等は行っていない。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的実施しているが、地域との協力体制となると築けていない。	定期的に避難訓練を実施し夜間発生した場合を仮定した訓練も行われている。非常災害時のマニュアルや連絡体制を整え、災害に備え食料品等の備蓄も準備されている。	災害時に備えた地域や関係機関との連携体制の整備のために、運営推進会議等を通じて支援体制について話し合う事を期待する。

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で徹底ができています。	プライバシー保護について研修を実施し、確認し合っている。職員の対応や言葉遣いで、気づいた点があればその都度注意していくよう努めている。日々の記録については個人名の記載に注意し、状況に応じて個人が特定できないような工夫がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思が答えられるような言葉かけに心がけ、少しでも本人の希望に添える工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ほぼ平等に入居者の希望に添えるよう、できる限りの支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その季節に合った装いができるよう、衣服の入れ替えを家族と相談しながら行っている。行事の際には特に本人と相談しながら服を選んでいる。毎月散髪業者が来てくれるが、馴染みの美容室がある方には付き添っている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	無理強いすることがない程度に、入居者による食事準備や後片付けを共に行っている。	併設施設の厨房にて作られた食事が提供されているが、ご飯とみそ汁はホーム内で作るよう取り組んでいる。行事食や利用者の希望に沿って、メニューを変更する機会もある。献立会議にて利用者の希望や意向を検討しメニューに反映させている。配膳や後片づけ等は利用者の状況を見極め無理のない範囲で行ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日1600kcalを目安に個々の摂取量、残食量を記入している。嗜好についても把握しており、メニューの変更等も行っている。またその日の健康状態によって食事形態を工夫している。水分は必要に応じてチェック表を記入している。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた口腔ケアを実施している。また、義歯の手入れもしっかりと行っている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	実際、入居者の高齢化に伴い、パッド使用者は増えてきているが、排泄のサインを見逃さないよう、トイレ誘導を行い、気持ち良く生活できるよう支援している。	個々の状況に応じた排泄チェックや、日頃の利用者の様子観察で排泄のパターンを把握している。利用者の状態に応じてパット等使い分け、羞恥心に配慮しながら個々にあった前誘導等の支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や野菜の摂取を促し、できるだけ自然排便ができるよう工夫している。日々の下剤についても医師とこまめに相談しながら、便秘の予防に努めている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1フロア隔日、どちらかのフロアで日曜を除く毎日入浴できる環境であるが、他のフロアで入浴する入居者は少ない。時間帯も14時～16時と決まっているが、その中ですきなタイミングで入れるよう工夫している。	フロア間で調整し、毎日の入浴を希望する利用者に対応できるよう工夫している。拒否傾向のある人は、個々のタイミングを見計らった声掛けにて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝を希望する入居者に関しては自由に寝られる環境にあり本人の意思に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋等を個人記録ファイルに綴じ、職員が自由に把握できるようになっている。服薬の際には、飲み終えるまで見守り確認することを徹底している。薬の変更のあった場合には職員間で情報共有し、変化に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や編み物・詩吟の披露など、一人ひとりに応じて楽しみのある生活を送れるよう工夫している。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節柄実施できない時もあるが、気分転換や運動不足の解消など、本人の希望に沿って外出できる機会を設けるようにしている。	立地条件的に(周辺は坂が多く、幹線道路に面している)気軽な散歩等が出来にくい環境ではあるが、地域の盆踊り・敬老会・音楽会等に積極的に参加するよう努めている。法人敷地内での交流・散歩や車椅子などの使用にて外に出る機会が持てるよう努めている。	家族の協力やボランティアの活用・職員の勤務体制の工夫などにより、気軽な外出・散歩等の機会が増すことを期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで常時不穩を招く(無くなった、盗った等で他入居者とトラブルになる、金銭の貸し借りによるトラブル)など支障がない限り、希望により本人管理・施設管理を選んでもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話を引けるようにしているが、設置している人はほとんどいない。必要に応じて施設のでんわで話してもらっている。私的な郵便物に関しては直接お渡ししている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	午前中は朝日がまぶしくカーテンを閉め、電気で調節しているが、午後からはカーテンを開けて自然の光を取り入れ、離宮公園や須磨海岸の景色を楽しむことができる。	共有空間にある広く大きな窓からは、近くに海が見え、近隣の離宮公園の緑が四季の移り変わりを感じさせている。季節毎に工夫した飾り付けや手作りの見やすいカレンダー等も利用者の五感の刺激につながるよう配慮されている。畳のコーナーや各箇所に椅子を置き、利用者が思い思いに過ごせる空間を確保している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ところどころに長椅子を設置し、思い思いに過ごせる空間を作っている。入居者の心地よい場所がそれぞれ違う為、それに合わせてフロアごとの配置を変えている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ入居前に使用していた家具で統一し、馴染みの空間を保っている。極力職員が手を加えすぎないよう、タンスや押し入れなどの居室の整理を本人の好みや使いやすさに合わせて援助している。	利用者や家族の希望を出来る限り取り入れ、馴染みの家具や装飾品を持ち込み落ち着いて過ごせるよう支援している。居室の施設については本人の意向に合わせ対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる限り入居者と共に生活が送れるよう工夫している。個人の残存能力にも差があるため、全員には実施出来ない部分もある。		